

2015年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

## ◎BEST DEALS OF 2014 を選出： SB でパナソニック、IPO でリクルート

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2014”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2014年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体・引受会社を選出した。

2014年度は、設備投資や開発、M&Aといった前向きな目的で巨額な資金を調達した案件に注目が集まった。使途に設備投資を含む総額4000億円の社債を発行したパナソニック、M&Aなどの資金として個人向け社債で総額1兆5500億円を集めたソフトバンク、複数エリアの開発資金を3138億円の増資で調達した三井不動産、米国の生保買収と同時のタイミングで約2600億円のエクイティファイナンスを実行した第一生命保険、上場の際の計画通りにM&Aを進めているリクルートホールディングスが受賞した。

債券部門では、超低金利下の運営として下限金利を導入した日本学生支援機構、神戸市、新自己資本比率規制に対応した円債を初めて供給した三菱UFJフィナンシャル・グループとラボバンクが高い評価を得た。株式部門では9年4ヵ月ぶりに復帰した西武ホールディングス、新しい対象資産として期待される日本ヘルスケア投資法人なども受賞している。

当年度から新設したBest House賞では、野村がSB、IPO、PO、CBの4部門で、三菱UFJモルガン・スタンレーが財投機関債等、地方債等の2部門で栄冠を手にした。ほかの部門での受賞者は、サムライ債が大和、外債がBOAメリルリンチ、J-REITがSMBC日興。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

### **普通社債部門**

#### BEST DEALS OF 2014

第12回 パナソニック債	3月4日	5年	2200億円
第13回 パナソニック債	3月4日	7年	800億円
第14回 パナソニック債	3月4日	10年	1000億円

〈野村/SMBC日興/大和/ゴールドマン・サックス/みずほ/メリルリンチ日本/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

シングルA格としては巨額の4000億円を円滑に消化した。機関投資家向けのコーポレート物では当年度最大。全年限で大台を確保するなど、発行規模を考慮した厚みのあるスプレッドに仕上げたことに、急回復を遂げた自身のクレジットへの評価が加わり、延べ1200件近い投資家が参加した。本邦を代表する企業の完全復活を印象付け、今後の成長を期待する買いも入った。

## BEST DEALS OF 2014

劣後第 1 回 三菱UFJフィナンシャル・グループ債 6月20日 10年 400億円

劣後第 2 回 三菱UFJフィナンシャル・グループ債 6月20日 10年 (NC5) 100億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー〉

銀行グループによる初の国内円貨建て B3T2 債。投資家との対話を通して、新規制下での銀行劣後債のスキームを浸透させ、このカテゴリーでの資金調達の道を拓いた。投資家層の異なる 10 年ブレット債と 10NC5 債とを組み合わせることで幅広い先からの需要を喚起し、後続案件のプライシングにおけるベンチマークとなった。

## BEST ISSUER OF 2014

### ソフトバンク

知名度の高さを生かし、全て個人向けの 4 本・総額 1 兆 5500 億円の SB を発行。当年度の社債発行総額の 2 割弱に相当する規模で、市場拡大に大きく貢献した。低金利にあえぐ投資家のニーズに応え、2.50%ものクーポンが確保できる 7 年物劣後債を 2 回発行した。

## BEST HOUSE OF 2014

### 野村証券

当年度を代表するパナソニック債やソフトバンク劣後債などの大型案件を成功に導いた。4 割近い案件でブックランナーを務め、質・量ともに存在感を示した。主要案件では軒並み主幹事に名を連ね、定評通りの手腕を見せた。

## 財投機関債等部門

## BEST DEAL OF 2014

第 37 回 日本学生支援機構債 10月24日 2年 400億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/大和/SMBC日興〉

日本銀行付利の 0.1%を上回る下限金利を設けたマーケティングを導入し、初めてプライシングに適用された案件。付利プラスアルファが好感され、2 倍弱の需要を集めた。その後の高格付け短中期債のマーケティング手法に布石を打った。

## BEST ISSUER OF 2014

該当なし

## BEST HOUSE OF 2014

### 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

下限金利が初めて適用された日本学生支援機構債(第 37 回)で事務主幹事を務めたのを皮切りに、超低金利に対応するための利率マーケティングの浸透に一役買った。この方式を導入した案件の約 8 割に当たる 16 銘柄を担った。件数・金額ともにランキング首位で、シェアは約 3 割に上った。

## 地方債等部門

### BEST DEAL OF 2014

平成 26 年度第 1 回 堺市債 11 月 14 日 30 年 150 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/大和〉

追加金融緩和後に一旦は消滅した 30 年地方債の適正水準を構築した。事前に見いだした国債+15bp という 1 本値、かつ 1 日半という短いマーケティング期間によって発行体・投資家がさらされるリスクを極小化し、市場が大きく変動する際の一つの起債モデルを示した。

### BEST DEAL OF 2014

平成 26 年度第 15 回 神戸市債 12 月 11 日 5 年 120 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/ゴールドマン・サックス〉

地方債で初めて下限金利を設けたマーケティングを実施し、日本銀行付利である 0.1%を超える利回りを確保した。主幹事方式ならではの機動的な決断だった。超低金利下における 5 年物地方債の安定発行を先導する役割を果たした。

### BEST ISSUER OF 2014

#### 福岡県

2 月の定時償還債は、タイト化が進みすぎて需給が悪化していた同商品の世直し案件となり、入札が不評だった 5 年債は 11 月以降の案件で主幹事方式に変更した。超長期債では年度を通じた総合主幹事制度を 2008 年度から導入しており、10 年債では独自の“競争型幹事方式”を採って条件決定日を 10 日に固定化している。こうした投資家との対話を重視した姿勢が好評。

### BEST HOUSE OF 2014

#### 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

堺市 30 年債と神戸市 5 年債という受賞案件を手掛け、福岡県の定時償還債や兵庫県の 18 年債といった市場の節目となる起債の多くで主幹事を務めた。福岡県の定時償還・満期一括および北九州市の 15 年・20 年債の同日起債、唯一の最終満期 10 年の名古屋市定時償還債など、新たな試みへの評価も高い。

## サムライ債部門

### BEST DEAL OF 2014

劣後第 1 回 ラボバンク債 12 月 12 日 10 年 508 億円

〈大和/メルリリンチ日本/みずほ/野村/SMBC日興〉

スプレッド縮小が極限まで進むなか、サムライ債市場での新たな商品として登場。破綻に対する日本との認識の違いを投資家に説明するなど、1 年前から入念に準備をしたうえで起債に臨んだ。ボラティリティに対応したマーケティングが需要を呼び込み、ベンチマークサイズのディールを成功させた。他の発行体への先鞭をつけるとともに、B3T2 のマーケット拡大に貢献した。

## 特別賞

第 9 回 モルガン・スタンレー債	5 月 16 日	4 年	1225 億円
第 10 回 モルガン・スタンレー債	5 月 16 日	10 年	87 億円
変動第 3 回 モルガン・スタンレー債	5 月 16 日	4 年	188 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/モルガン・スタンレーMUFG〉

4 年債で 3 年・5 年双方の投資家を呼び込む戦略的な年限設定のほか、マーケティング期間の短縮で価格変動リスクを極小化させるという手法で、6 年ぶりのサムライ債を総額 1500 億円の大型案件に仕上げた。周辺対比で厚みのあるスプレッドと希少な米国物、三菱UFJフィナンシャル・グループという強力な後ろ盾も成功の要因となり、全員参加型のディールでモルガン・スタンレーの復活をマーケットに印象付けた。

## 特別賞

第 18 回 メキシコ合衆国債	7 月 15 日	5 年	338 億円
第 19 回 メキシコ合衆国債	7 月 15 日	10 年	139 億円
第 20 回 メキシコ合衆国債	7 月 15 日	20 年	123 億円

〈シティグループ/みずほ/野村〉

サムライ債発行支援ファシリティ(GATE)からの“完全卒業”を果たした案件。強固なクレジットを背景とした戦略的な運営で、スプレッドのタイト化と年限の長期化、投資家層拡大の全てを実現した。10 年債は 18 年ぶり、20 年債は初の発行となり、中期までだったクレジットカーブを一気に超長期へと伸ばした。

## BEST ISSUER OF 2014

### ルノー

5 月の 2 本立て債はフランス銘柄のみならずコーポレート物として過去最大規模となり、10 年以上にわたるサムライ債市場へのコミットメントの成果が出た。日産自動車の親会社という抜群の知名度に甘えることなく、マーケットとの対話を真摯に続けてきた。常に投資家の声に耳を傾けるという姿勢が、片足“トリプル B”としては驚異的な総額 1500 億円の大型ディールとその成功に結びついた。

## BEST HOUSE OF 2014

### 大和証券

2 年連続でランキング 1 位。幅広いカバレッジを強みとし、ラボバンクやBPCEの新型劣後債を登場させただけでなく、クレディ・スイスやドイツ銀行の大型案件を手掛けるなど、複数の注目ディールでブックランナーを務めた。年度当初こそ出遅れたが、終わってみればダントツのトップハウスだった。トルコ共和国債など国際協力銀行保証銘柄もローンチさせた。

## 証券化部門

### BEST DEAL OF 2014

該当なし

### BEST ISSUER OF 2014

住宅金融支援機構

毎月 1000 億円前後、年度で 1 兆 2438 億円という RMBS の供給額は国内一般債市場で最大級。安定消化を心掛ける態度、市場重視の姿勢に定評がある。毎回のように新規の参加、休眠先の復活が見られた。金利変動が大きくなった年度後半にはマーケティングレンジを狭め、シ団を招聘しないなど、運営上の工夫もあった。

### BEST HOUSE OF 2014

該当なし

## 外債部門

### BEST DEALS OF 2014

サントリーホールディングス グローバルドル債	9月24日	3年	5億ドル
サントリーホールディングス グローバルドル債	9月24日	5年	5億ドル

〈BOAメリルリンチ/モルガン・スタンレー/シティグループ/JPモルガン/パークレイズ/BNPパリバ〉

米ビーム社買収という大型 M&A のブリッジローンの一部を借り換えるための起債。初の外債は、グローバル展開を本格化させることをアピールするうえでも重要な位置付けだった。希少な日本のコーポレート物であることを強みに、タイトなプライスと旺盛な需要を両立。常にチャレンジし続ける「やってみなはれ」の精神が海外でも評価された。

### 特別賞

日本政策投資銀行 ユーロ債	9月30日	3年	2億5000万ユーロ
---------------	-------	----	------------

〈BOAメリルリンチ/モルガン・スタンレー/シティグループ/大和〉

日本の発行体が海外で初めて発行したグリーンボンド。ユーロ市場での発行の飛躍的な伸びを好機と見て本場欧州に乗り込み、投資家層の拡大のみならずタイトなプライスも実現した。ベンチマークサイズでなくてもしっかり受け入れられることと、グリーンボンドのポテンシャルの高さを示した。

### BEST ISSUER OF 2014

地方公共団体金融機構

日本の公的 (SSA) ネームとして唯一ベンチマークサイズの非政府保証ユーロ建て債とドル債を発行した。発行体として初となる9月のユーロ建て債は、2007年の日本政策投資銀行債以来となる日本物 SSA 銘柄の希少性が訴え、10億ユーロへの増額に成功した。2月のドル債では、ソブリン格下げ後の国際協力銀行債でできた日本物の居所を、非政保銘柄として定着させた。

## BEST HOUSE OF 2014

### BOAメリルリンチ

メインハウスとしての力を見せた。受賞案件のサントリーホールディングス債や銀行シニア債、生保の劣後債、主要公的ネームのディールを登場させ、2月の国際協力銀行債ではソブリン格下げ後の日本物ドル債の居所作りに力を注いだ。ユーロ建てでは地方公共団体金融機構債のほか、日本政策投資銀行のグリーンボンドを手掛け、マーケット拡大に貢献した。

## 新規公開株式 公募・売出部門

### BEST DEAL OF 2014

西武ホールディングス                      4月23日上場      売出：2782万6000株      445億2160万円  
〈UBS/みずほ〉

筆頭株主の米サーベラスが売り出しを中止するという非常事態に見舞われたものの、投資家の目線に合わせたプライシングと柔軟なディール運営で9年4ヵ月ぶりの市場復帰を成功させた。セカンダリーが堅調なことも高い評価を得ている。

### BEST ISSUER OF 2014

#### リクルートホールディングス

知名度が高い発行体による“待ちに待ったIPO”となった。「集団で個性を発揮できる特殊な企業。M&Aにしても何か面白いことをやってくれそう」(PEファンド)と評判が高かった。ブックビルディングではリテールと機関投資家ともに多くの投資家を動員した。

### BEST HOUSE OF 2014

#### 野村証券

リクルートHDや、すかいらーくなどの2014年度を代表するIPOから、IT系企業、エグジット案件まで幅広い案件でブックランナーを務めたことが評価されている。ランキングでは、シェア45.64%を獲得し、件数・金額ともにダントツの首位だった。

## 既公開株式 公募・売出部門

### BEST DEAL OF 2014

三井不動産                                      5月27日                      公募：1億株                      3138億円  
〈野村/大和/SMBC日興〉

公募総額3138億円は当年度最大。2020年の東京五輪に向けて不動産市況が盛り上がり、株価が上場来高値圏にある最適のタイミングでローンチした。セクタートップのブランド力に加え、過去の投資実績や豊富なパイプラインから、将来の成長資金と長期的な財務基盤の強化というエクイティ・ストーリーは納得感を持って受け入れられた。

#### BEST DEAL OF 2014

第一生命保険 7月3日 公募：1億8490万株 2590億4490万円  
〈ゴールドマン・サックス/野村〉

米プロテクティブ生命の買収手続き開始と同時に発行登録を行い、世界でも稀となるクロージング前の公募増資を実行した。買収のシナジー効果や被買収企業の成長ポテンシャルといった M&A のモメンタムを活用して機動的なファイナンスを実現した。

#### BEST ISSUER OF 2014

該当なし

#### BEST HOUSE OF 2014

野村証券

三井不動産や第一生命保険、電源開発といった当年度を代表する大型案件でブックランナーを務め、42.1%の高シェアを獲得した。適切なプライシングで投資家と発行体、株式市場の橋渡し役を果たした。

### 不動産投資信託証券部門

#### BEST DEAL OF 2014

日本ヘルスケア投資法人 11月5日上場 公募：3万9000口 58億5000万円  
〈大和〉

国内初のヘルスケア特化型 REIT。市場の期待に応え、今後の拡大に弾みを付けた。社会貢献と安定した収益性が訴求し、幅広い投資家の需要を創出。初値は公開価格を48%上回り、アフターマーケットも良好だった。

#### BEST ISSUER OF 2014

インヴィンシブル投資法人

復活に向けた総仕上げのファイナンス。スポンサー交代、デットコストの低減、ホテルを中心としたポートフォリオの再構築といった再生に向けた取り組みが国内外の多くの投資家の支持を集めた。投資口価格は公募価格の2倍以上に上伸している。

#### BEST HOUSE OF 2014

SMB C日興証券

ブックランナー案件は40件中29件に達し、シェアは33%と別格の存在感を見せた。大型案件の多くに関与し、ジャパン・ホテル・リートやヘルスケア&メディカルなど特色のある案件も手掛け、J-REIT 発行市場の拡大に貢献した。

## 転換社債型新株予約権付社債部門

### BEST DEALS OF 2014

中国電力 ユーロ円 CB	2月12日	3年	500億円
中国電力 ユーロ円 CB	2月12日	5年	500億円

〈野村〉

電力会社では珍しい大型 CB に挑戦。電力自由化や原発再稼働などの議論が進んで、電力会社のエクイティ調達ニーズが高まるなかで先鞭を付けた。投資家と既存株主に配慮した条件設定で、上限でのプライシングに成功した手堅いディール運営も評価されている。

### BEST DEAL OF 2014

名古屋鉄道 ユーロ円 CB	11月25日	10年	400億円
---------------	--------	-----	-------

〈大和/モルガン・スタンレー/SMBC日興/みずほ〉

2年連続で10年という長期年限のゼロクーポン債を発行。名古屋駅前の再開発やリニア新幹線の開通期待で、株価が高値水準にある好機を逃さずにローンチし、前回債よりも好条件での発行に成功した。8年後のプットはリーマンショック後で最長だった。

### BEST ISSUER OF 2014

該当なし

### BEST HOUSE OF 2014

野村証券

公募型 CB (45件) の半分強となる 24 件でブックランナーを担当。1000 億円規模の全案件に関与し、シェアは 54.51% と圧倒的な強さを見せた。リキャップ CB やドル CB で発行体のニーズにも対応した。

#### ■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体・引受会社は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。



◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル 2 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <https://c-eye.ne.jp/>

**【本件に関するお問い合わせ先】**

**株式会社キャピタル・アイ**

**編集部:菊地健之 03-6826-4721**